

読むと上京のまちが♡好き♡になる

かみぎょう くしゃきょう

# 上京区社協ニュース

Kamigyo Ward Council of Social Welfare  
Publicity Papers No.28 Feb. 2021

社会福祉法人京都市上京区社会福祉協議会（上京区社協）

〒602-8511 京都市上京区今出川通室町西入

堀出し町 285 番地 上京区総合庁舎 2 階

TEL.075-432-9535

FAX.075-432-9536

WEB.http://kamigyo-syakyu.jp/

上京区社協 ウェブサイトはこちら▶



## あなたと一緒に考えたい、コロナ禍後の上京のまちづくり！ コロナ禍の中でも、安心して暮らし続けられる まちづくりが、上京のまちでは行われています。

今回の上京区社協ニュースでは、ボランティアグループ・医療機関・地域の方がつながりながらコロナ禍に立ち向かう姿をお届けします。

「一人ひとりができることをして、お互いに支えあう」

「みんなで顔の見える関係になる」

「誰もが感染する可能性があるから、みんなで乗り越える」

みなさんのお話から、コロナ禍後の上京のまちが見えてきました。



ガウンの材料はごみ袋。友愛会メンバーがパーツごとに手分けしてつくっています。



堀川友愛会のみなさん▼



### 医療従事者が使うガウンづくりをしています

—ボランティアグループ「堀川友愛会」のみなさん

今、堀川病院の医師・看護師・ケアワーカーが使用するガウンづくりを行っています。昨年10月までは月6回、以降は月1回集まり、1日100枚ずつつくっています。当初は病院職員さんだけでつくっていたそうです。それだけでは大変、と、ゴールデンウィークの頃から私たちもつくり始めました。当時はステイホーム期間だったので、同意した友愛会メンバーに材料を届けて、自宅で作ってもらいました。

ガウンづくり以前は、地域の方から古布を提供していただいて、病院で患者さんの体をふくときに使う清拭をつくっていました。みなさんボランティアなので、強制しないように・頑張りすぎないようにと声をかけあい、どんなこともみんなで話し合っ決めていきます。それが、堀川友愛会の自信になっています。「困った時はお互い様」です。これからも一人ひとりができることをして、お互いに支えあっていきたいです。

### 地域の方から応援メッセージをいただきました

—社会医療法人 西陣健康会 堀川病院

理事 事務長 山田 正明 さん

昨年4月10日以降の50日間で、患者様20名と職員10名が新型コロナウイルス感染症に感染しました。当初は、苦情を多数いただきました。職員の中には、「報道を見るのが怖くなった」と言う者も少なくありませんでした。一方で、その何十倍もの応援の声を地域の方などからいただきました。そうしたメッセージは院内に掲示し、職員に「応援してくれている人たちがたくさんいるよ」と

伝え続けました。コロナ禍の前から、わたしたちが地域のためにできることはないかを常に考えていましたが、わたしたちが地域の方に支えていただいていたのだと、強く感じました。また、かつて地域の方と行っていた盆踊りのような取組みを通して、みんなで顔の見える関係になればいいかと再認識させられました。コロナ禍が落ち着いたら、地域の方と一緒に何が出来るか考えたいと思います。



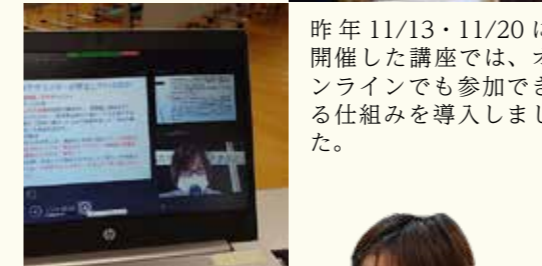
応援の声は手紙・メール・Fax等様々な形で寄せられました。また、そうした動きはマスコミでも紹介されました。



現在、来院される方への検温・手指消毒をはじめとする感染予防の取組みを、徹底して実施しています。



◀山田 正明さん



昨年11/13・11/20に開催した講座では、オンラインでも参加できる仕組みを導入しました。



伊藤 良子さん▶

### 感染予防講座の講師を務めさせていただきました

—社会福祉法人 京都社会事業財団 西陣病院

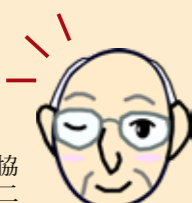
感染制御看護師 伊藤 良子 さん

医療の現場では感染しない・感染を広げない対策を丁寧に行っています。高齢の方や持病を持っておられる方など、新型コロナウイルス感染症に感染すると大きな影響が出る方と接する機会が多いからです。検温・手指消毒・3密対策の徹底や、エレベーターのボタンを指の第二関節で押すなどの「共用部分に触れる面積を小さくする」取り組みも行っています。冬の間、換気についてお悩みの方もいらっしゃると思います。普段

過ごさない部屋の窓を開けるなど、出来る範囲で取り組むことが大切だと思います。また、少しでも「体調が悪いな」と感じたら、すぐにかかりつけ医にご相談いただけたらと思います。感染者が増えた今、誰もが感染する可能性があります。そこで今回、上京区社協さんがまちづくり活動の担い手の方向けに行った感染予防講座の講師を務めさせていただきました。コロナ禍を、みんなで乗り越えていきたいですね。

### 上林会長の 手紙

上京区社協  
会長 上林 研二



「困難を乗り越える上京のまちづくり」上京のまちには、公営・民営の高度医療機関、そして多くのかかりつけ医がおられ、わたしたちの暮らしに安心をもたらしておられます。コロナ禍初期、医療機関への非難が全国的な問題になりましたが、上京のまちではボランティアグループ・医療機関・地域の方が手を携えながら乗り越えようとする姿がありました。私は上京区民の良識を感じています。

今年度の上京区社協ニュースでは、コロナ禍における区内の動きをお伝えします。また、反対側の面には、学区内の動きをお伝える学区ニュースを掲載しています。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

社会福祉法人  
京都市上京区社会福祉協議会



私たちは持続可能な開発目標を支援しています。